真明

発行所
天理教芦津大教会
〒546－0003
大阪市東住吉区
今川8丁目6番32号
電話 06（6702）1980
FAX 06（6700）1854
Eメール shinmei@ashitsu.or.jp
印刷所　天理時報社

教祖が先に通ってくださっている

教祖百四十年祭

わかぎの集い参加者と学生スタッフ。将来の芦津を担う頼もしい若者たち（3月30日）

「諭達第四号」には、「ひながた」という言葉が何度も出てきます。ひながたは、教祖がお残しくださった、「こうすれば陽気ぐらしができますよ」というお手本で、教祖は自ら実行して私たちに教えてくださり、その跡を辿るよう仰せくださいました。

時に私たちは、生命にかかわるような病気や、人生を左右するような大きな事情に出遭ったとき、陽気ぐらしという理想とはあまりにかけ離れた現実に、気を落としたり、全てを投げ出したくなったり、神様が信じられなくなることもあるでしょう。

こうした現実と、陽気ぐらしという理想とを繋いでくださっているのが、教祖のひながたです。私たちが直面するつらいことや乗り越えにくいことは、全て教祖が手本として先に通ってくださり、しかも陽気ぐらしへ向けて、喜びをもって人だすけに通られているのです。「つらい中、苦しい中でも、こう思案して、こう通るのですよ」という思案と行動のお手本がそこにあるのです。

年祭活動の旬、私たちは常に教祖のひながたを見つめ、自らに当てはめて思案と行動のお手本として、毎日を陽気に通らせていただきましょう。

難しい道はをやが皆通りたで。をやの理思えば、通るに陽気遊びの理を思え。

明治21年10月12日　おさしづ

四方正面

教祖が教えてくださったことは、『稿本天理教教祖伝』や『逸話篇』の中に幾つも書き残してくだされてある。

春季大祭で、ようぼくは親神様の教えを教祖の代わりに伝えていく立場の者であると改めて教えていただいたが、私は教祖の数ある教えを心に留め置き、日々伝えていることがどれほどあるだろうか。

昨今は困っている方、たすけてほしい方が、自ら声をあげて何かに縋る時代ではないような気がする。しかし、そんな時代だからこそ、毎日の挨拶や声掛けから、自分の存在に信用を積み上げ、「いざ」というとき、必ずこの教えでたすかる道を提示できる者にならなくてはならない。

修養科でたすけていただいた父は「必ずおぢばでたすかる」と、人に自信をもって伝えてきた。この年祭活動を通して、私もそんな存在になりたい。（木）

《３月月次祭　挨拶》

おやさと伏せ込みひのきしんに心を向けて励ませていただこう

大教会長　井筒梅夫

皆様方には、日頃からお道の信心にお励みくださり、教祖年祭の旬の御用にご丹精を頂きまして、誠にご苦労様です。只今は、皆様方と共に、３月の月次祭を勇んで勤めさせていただきまして、大変ありがたく、ご同慶に存ずる次第です。

今、お道の中で布教活動に最も勇んでおられるお一人である竹川東一郎先生から、にをいがけの大切さについてお話を頂きました。私たちはお道を信仰しておりますから、御守護のありがたさやお道の素晴らしさは、お互い十分に知っているわけです。しかし、いくら御守護がありがたくても、お道の信仰が素晴らしくても、これを伝える人がなければ陽気ぐらしは進まないのです。ですから私たちようぼくは、お道を知らない方々に元なる親の存在を伝え、真にたすかる道をにをいがけすることを、親神様から御用としてお与えいただいていると思います。

どんな所にをい掛かるも神が働くから掛かる。

明治26年7月12日

というお言葉があるように、にをいを掛けてくださるのは親神様です。親神様が働いて、にをいを掛けてくださるのですから、私たちは親神様におもたれして、安心をして、そして勇んで神名をお伝えさせていただけばよいのです。教祖百四十年祭に向けて、それぞれにできるにをいがけ、布教にしっかりと励ませていただきたいと思います。

さて、今年の本部春季大祭を皮切りに、おぢばでの伏せ込みひのきしんが始まり、１月、２月とも大勢の方々がお屋敷でひのきしんの汗を流してくださいました。大変ありがたいことです。

過日、本部保安室の退職者に対するご挨拶で、内統領・宮森先生がおぢばとひのきしんについて分かりやすくお話しくださいました。その中で、「てをどりのひのきしんの手は、おぢばに駆けつける手である。つまり、おぢばへ帰らせていただいてひのきしんをさせていただこうという手振りであって、おぢばとひのきしんは不可分の関係にある」と聞かせていただきました。

みかぐらうたには、三下り目に１カ所、七下り目に１カ所、十一下り目に３カ所と、「ひのきしん」という言葉が５カ所出てきます。また、十一下り目には「きしん」という言葉が加わっています。三下り目と十一下り目は「一ツ　ひのもとしよやしきの」から始まるように、これはおぢば、お屋敷に関する歌です。また七下り目は、八ッ、九ッ、十ドで、おぢばに尽くすひのきしんの実り、御守護について述べられています。

これは、「元初りに人間世界を創られたこのぢばは親神様の田地であるから、元のぢばに蒔いた種は必ず生えてくる。この元の屋敷が、親神様の御守護が芽生える土地であるのならば、私もひのきしんの誠を親神様に捧げさせていただこう。とうとうこの度、この元の屋敷、おぢばこそ、親神様が現れておいでになる所で、一切の御守護が芽生え実る所であることを知って、ここへひのき

しんという真実の種を蒔きに来た。おぢばに誠真実の種を蒔いた者は、肥料を置かなくても豊かな収穫ができるような、不思議珍しい御守護に浴することができる」と教えていただくのです。

もちろん、皆がおぢばでひのきしんができるわけではありませんから、その代わりに教会や地域、身近な所でひのきしんをするのですが、ひのきしんの根本はおぢばにあることを心に留めて、実行、実践に励ませていただきたいと思います。

またおぢばで行うひのきしんは、本部祭典日の伏せ込みひのきしんに限ったことではなく、いつでも実行できます。神殿の回廊拭きや腰板拭き、神苑の草抜きもあれば、神殿へ参る道中にごみ拾いもできます。また、詰所で掃除をしたり、食堂のお手伝いもできます。さらには、御恩報じのつくし運びもおぢばへのひのきしんであって、こうして尽くした種を親神様は真実と受け取ってくださって、必ず芽生えの御守護を頂けるのです。

大教会では今年、おやさと伏せ込みひのきしんを実施しておりますが、これを良き契機として、一人ひとりがおぢばに心を向けて、おぢばへの種蒔きに励ませていただきたいと思います。

来月の18日には、教祖には227回目のお誕生日をお迎えあそばされ、教祖誕生祭が執り行われます。翌日には婦人会総会が開催されます。このめでたい旬に、おぢばへ心を向けて足を運び、お誕生日を寿ぎつつ、一層の成人をお誓い申し上げたいと思います。そして、教祖ひながたの道をお偲び申し上げて、たすけ一条に心勇んで骨折りをさせていただき、神の田地に真実のつくし運びの種蒔きをさせていただきたいと存じます。

どうかいや増しに勇んだご丹精をお願い申し上げます。（要約）

立教百八十八年　三月月次祭祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に、天理教芦津大教会長井筒梅夫、慎んで申し上げます。

親神様には、神人和楽の陽気世界を楽しみにこの世人間をお創め下されてより、絶え間なき御守護を以てお護り下され、温かき親心の上から私共をお手引き下さいまして、ようぼくとしてたすけ一条にお使い下され、陽気ぐらしへとお導き下さいます御慈愛の程は、誠に有り難く勿体無い限りでございます。私共はをやの御心に添わせて頂けるよう、御恩報じの心で時旬の御用に勤めさせて頂いておりますが、その中にも今日の吉日は、おぢばよりお許しを頂きました尊き日柄でございますので、只今から役目にあずかる者一同、陽気な地歌に調子を合わせ、座りづとめ、てをどりを勇んで勤めて、三月の月次祭を執り行わせて頂きます。御前には今日を大切な一日と参らせて頂きました芦津の道の子達が、日頃賜る御恵みに御礼申し上げ、おたすけの心でつとめの理に添い切る状をも御照覧下さいまして、何卒、親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

私共をはじめ、教会長、ようぼく一同は、今日の大切な時旬を心に刻みつつ、元なるぢばに心を結び、日々心のほこりを払い、心澄み切る努力を重ねて、銘々の足許でにをいがけ・おたすけに、人を育て導く丹精に、真心を尽くして努めさせて頂く所存でございます。

何卒、届かぬところは幾重にもお仕込み下さいまして、教会長、ようぼくのおたすけと丹精の上に不思議自由の御守護を賜り、ぢば一条に真実を伏せ込ませて頂きまして、年祭活動仕上げの年に相応しい成人の歩みを進めさせて頂けますようお連れ通りの程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

《3月月次祭　布教講話》

これが私の生きる道

飾東部属・飾大分教会長　竹川東一郎 先生

只今は教祖百四十年祭の前年として、それぞれに皆様方お立場の上で勇んで成人を求めてお励みいただいていることかと思います。

ある方が、「もし山の中で遭難したとき、一番安心するのは何を見つけたときですか」と聞かれ、「道を見つけたときが一番安心する」と答えたそうです。道を見つけて辿っていけば、どこかに繋がっているから助かる。たとえそれが細い道や獣道であっても、道に出合うとそれだけで安心感があるのだと思います。

私たちの信仰する天理教でも、教祖は道について、おふでさきに、

このさきハみちにたとへてはなしする
どこの事ともさらにゆハんで
一号　46

やまさかやいばらぐろふもがけみちも
つるぎのなかもとふりぬけたら
一号　47

まだみへるひのなかもありふちなかも
それをこしたらほそいみちあり
一号　48

ほそみちをだん〳〵こせばをふみちや
これがたしかなほんみちである
一号　49

これからハをくハんみちをつけかける
せかいの心みないさめるで
二号　1

いまのみちいかなみちでもなけくなよ
さきのほんみちたのしゆでいよ
三号　37

このみちハどふゆう事にをもうかな
このよをさめるしんぢつのみち
六号　4

と書かれています。他にも多数ございますが、教祖によって親神様の思いを聞かせてもらえる陽気ぐらしの道、またこの世治める真実の道、真にたすかる道があることを教えていただくわけです。親神様が望まれる陽気ぐらしの道を、そのお手本として教祖がひながたの道を先に通ってくださり、それを教えていただく。私たちは非常にありがたいと思います。

竹川家の信仰

竹川家は私で信仰3代目になります。私の祖父、竹川萬次が16、17歳頃に目が見えなくなったことを、天理教の布教師におたすけいただいて、御守護を頂いたところから始まりました。

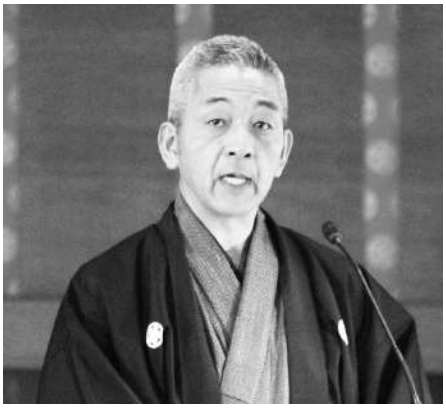
祖父はたすけていただいた喜びで御恩返しをさせていただきたい、困っている方に神様の教えを伝えさせてもらいたい、ということから、単身、上級の飾磨分教会に入り込みました。数年経ってから、人の多い大阪で、より一層おたすけ活動をしたい、とのことで大阪に出てきて、大正12年に大阪市港区弁天町で飾大宣教所を設立しました。

祖父は、昭和23年に出直しますが、その直前に「息子に何か言い残すことはございませんか」と聞かれ、「何も言うことはない。この道を通ってくれたらそれでいいのや」と言い残して出直したそうです。父・俊治は当時18歳でしたが、その後、別席を運び、そして大学卒業後は二代会長となった祖母の手足として、道一条で通ってきました。

その後、父が教会長となり、教区、支部、本部でもいろいろな御用をする中で、教祖百年祭を前に「一教会長として、果たして自分の通り方はこれでいいのか。もっとさせてもらうことはないのか」と思い、毎晩お願いづとめをしておりました。数日後、夢の中で全く知らない場所で一生懸命おさづけを取り次いでいる自分の姿があったそうです。それで、「海外でにをいがけ、おたすけをしてくれと、神様がおっしゃっているんだ」と悟り、そこから知り合いもいない、言葉も分からない中で台湾に布教に行ったのです。

懸命におさづけを取り次ぎ、またお話をし、にをいを掛け、そこから台湾の方がおぢばへとお帰りいただくようになり、ようぼく、修養科生もできるようになり、台湾に布教所ができ、その後、教会が2カ所できました。

さらに、中国、マレーシア、ミャンマーへと道が伸び広がっていきました。にをいがけ、おたすけをしていたわけですが、父は言葉が分かりません。ですが、行くたびに帰ってきては、「今回も神様が働いてくれた。教祖が先回りしてくださった」と話をしてくれましたので、私も小さいながらにすごいなと感心していました。



その父から、今から24年前の平成13年、父が72歳、私が32歳のときに、「今年で会長を代わろうと思う。私も若いときに会長にならせてもらい、信者さんから、『会長になって苦労して、勉強してくださいね』と言われたので、断るすべがなかった。だからお前も何ができる、何が分かったわけでないけれど、会長になっていろいろ勉強させてもらいなさい」と言われました。私自身も断るすべもなく、お受けさせていただき、教会長となり、その年の11月に奉告祭を勤めました。

伝染病のように伝え広める

「さあ、これからや」と思っていた矢先の12月、5歳の長男が通う幼稚園で餅つき大会があり、「楽しかった」と喜んで帰ってきたのですが、夕方から突然「しんどい」と言って、上げ下しになったのです。おさづけをさせてもらいましたが、止まりません。「子供に見せてもらうのは、親として何か心得違いがあったのか」と、夫婦で相談し、反省をしながら子供におさづけを数回させていただきましたが、翌朝も容態が治まらず、幼稚園に伝えると、そういう風邪が流行っているということでした。

その後、幼稚園から電話があり、「実は同じ症状の子供さんが10数人いて、その症状の子が病院に診察に行くと、赤痢が見つかりました。竹川さんと同じ症状なので、病院で診察をしてくれませんか」と言われたので、病院で診察を受けると赤痢が見つかりました。赤痢は法定伝染病で、とても感染力が強く、小さい子供がかかると中には命を落とすことさえある、と言われました。

数日後、今度は1歳の次男が同じように上げ下しをするようになり、病院に連れて行くと、赤痢が見つかりました。子供に立て続けに見せてもらうということは、これは親としてまだ反省が足りないのだな、と感じておりました。

すると、今度は教会に住み込んでいた若い青年さんにも症状が出て、赤痢になったのです。子供に見せてもらうのは「親のさんげ」だと思いますが、教会の青年さんにも見せてもらったということは、これは「教会の事情」として考えなければならないと思いました。保健所から、度々教会内の消毒に来られ、もうこれ以上の感染者を増やさないために、教会に人を来させないでくださいと注意され、もし来られる方がいても、決して飲食物は出さないでください、と言われました。

来てもらうこともできないし、来ても喜んでもらうことさえできない。神様の思いはどこにあるのだろうか。これが悪かったのか、あれが悪かったのかと考えているとどんどん勇めなくなり、喜べなくなってくる。

そんなとき、月次祭前に父が帰ってきたので、事情を報告をしました。すると父は「昔、柏木庫治先生が、親神様の教えを人の口から口へ、胸から胸へ、燎原に火を放つが如く広めさせてもらおう。伝染病のように伝え広めさせても

らう。そんな話をしてはった」と言うのです。

それを聞いて私は、赤痢という法定伝染病を通して、若い会長にをいがけを頑張ってくれよという、神様の叱咤激励じゃないかと思いました。そう思うといても立ってもいられず、すぐに難波に行きまして、一人でも多くの方に神様の思いを伝えさせてもらおうと、それ以来、難波で路傍講演をするようになったのです。

「身上事情は道の花」と聞かせていただきますが、なぜ身上で喜べるのか、なぜ事情で結構と思えるのか。よくよく考えたら、そこに神様の思いがあってのことなのだ、親は私たち人間の成人を望まれるがゆえに、あえて身上や事情を与えてくださる。その身上、事情を与えてもらうときに、親の思いを感じたならば、それが花となる。親の思いが込められているからこそ、節を与えていただくのだ、と悟らせていただきました。

ありがたいことに、この身上、事情を与えてもらって、私は少しなりとも、神様の思い、親の思いを感じさせていただきました。

神名を唱える

陽気ぐらしの道は、教祖の通られたひながたから学ばせてもらいますが、『逸話篇』に44「雪の日」というお話があります。

ある大雪の日に増井りん先生がおぢば帰りをされていると、橋の途中で吹雪が吹いて川へ落ちそうになられた。そのとき、「なむてんりわうのみこと」と一生懸命にお願いしながら渡られた。

お屋敷に着くと教祖が、

「ようこそ帰って来たなあ。親神が手を引いて連れて帰ったのやで。あちらにてもこちらにても滑って、難儀やったなあ。その中にて喜んでいたなあ。さあ〳〵親神が十分々々受け取るで。どんな事も皆受け取る。守護するで。楽しめ、楽しめ、楽しめ。」

と、仰せられ、両方のお手でしっかりとお握りくだされた、という逸話です。

吹雪の中、橋から落ちないように這いつくばって神名を唱えながら橋を渡られたのを、教祖は「**その中にて喜んでいたなあ**」とおっしゃっている。ということは、「なむてんりわうのみこと」と唱えることを親神様、教祖は喜んでいると受け取ってくださるのだと感じました。

私たちはおつとめで「てんりわうのみこと」と唱えますし、またおさづけを取り次ぐときも、「なむたすけたまへ　てんりわうのみこと」と唱える。おつとめをすること、おさづけを取り次ぐことを、親神様、教祖は喜んでくださるのだと感じます。神名を唱えること、神名を流し、広めることで神様は喜んでくださると思います。

ミャンマーでの出来事

今から10年前、教祖百三十年祭の前年に、父とミャンマーに行きました。信者さんのおたすけに行った後、夕食まで時間が空いたので、神名を流そうと思い、大きな声で「ミンガラーバー（こんにちは）。アイアムジャパニーズ、アイアム天理教」と言って、みかぐらうたを歌い始めました。みんながこちらを見るので、私は笑顔で会釈しながら、よろづよ八首を歌っておりました。しばらくすると女性の方が２人来られ、ペットボトルの水や果物を持ってこられました。ずっとしゃべってこられるので、ミャンマー語と日本語と絵が描いてある本を取り出して、その女性に「身体の悪いところや痛いところ、しんどいところはありませんか？」と、身振り手振りを交えて伝えると、頭を押さえられたので、名前や年齢をノートに書いてもらい、おさづけを取り次がせていただきました。

最後に２回手を叩いた後、その女性を見ますと、その後ろにたくさんの人が並んでいるのです。そして、その女性にいろいろと聞いているのです。私は言葉が分からないので、おそらくですが、女性の方は「この暑い中、心地いい歌を歌ってたので、水を持って行ったら、身体で痛いところはありま

せんかって言うから、私は頭が痛いと言ったら、今お祈りしてくれて、すごく気持ち良くなった」と言っておられたのだと思います。

この後、20名ぐらいから「私もやってほしい」と願われました。「私は胃が痛い」「私は腰が痛い」「足が悪い」と立て続けにおさづけを取り次がせていただきました。

この出来事が、父が言っていた「神様が先回りして働いてくださる」ということなのかと実感しました。言葉ができる、できないにかかわらず、神様が働いてくださる。こういうことかと思ったときに、何とも言えない喜びや感激を感じました。

神名を流すことで、神様が働いてくださることを実感させていただきました。

楽しんで通る

私はよく「竹川さんは勇んでるから、できるからするんでしょ」と言われますが、「私はただ張り切っているだけなんです。また、するからできる。するから勇めるんです。するかしないかは、結局あなた次第なのです」。

皆さん、それぞれ状況や役割も違いますが、それぞれの立場でできる布教、にをいがけがあります。「年を取ったからできません。病気なのでできません」ではなく、年配の方は年配の方ができるにをいがけ、病気の方は病気の方ができるにをいがけがあるのです。

ですから「こうしなければならない」「こうするべきである」という枠組みにとらわれることなく、「これなら私でもできるかな」という布教を心掛ければいいと思います。

教祖は、「**楽しめ、楽しめ、楽しめ**」と仰せくださいました。どうぞ共々にこの年祭活動中も含め、これから先の自分の人生も多いに楽しみながら、通らせていただきたいと思います。

をやのめにかのふたものハにち〳〵に
だん〳〵心いさむばかりや
十五号　66

ご清聴ありがとうございました。

（文責　編集部）

三月月次祭　祭典役割

祭主	大教会長	扉者	奥田眞治	扉者	加世田洋	座りづとめ	大教会長	井筒文夫	川畑澄博
指図方	今川政治	賛者	西本興正	賛者	松森誠太	前半	蔑内浩	中村俊和	石川健郎
						後半	花岡忠和	今川聖一	宗我道明

てをどり	会長夫人	前会長夫人	榎理恵子	山田秀子	梶川りよ子	岩切治代	石川石美	花岡由紀子	梶川正美
地方	湯川正圀	岩切正教	竹内義忠	守田清一	立花善三	木村真次	川畑正博	梶川和人	
笛	山本義範	ちゃんぽん 瀧本眞二郎	拍子木 奥田正徳	太鼓 山田道弘	すりがね 井筒敏成	小鼓 瀧本庄司			
琴	井筒ちぐさ	三味線 浜田たつゑ	胡弓 瀧本基志枝						

献饌長	守田清一	伝供	川畑澄博	山本義範	瀧本庄司	立花善三	西本義之	中村俊和	岡本久昭	新居里実	今川聖一	村田光伸	湯川正信	吉田裕樹	川畑正博	榎康紀	瀧本巨	梶川和人	望月慶太	梶川芳征	宗我道明	北村浩	菊池和彦

佐藤敏幸	久米義彦	大西直喜									

喜びの奉告祭

沖縄分教会（沖縄県島尻郡）は、4月5日、大教会長夫妻をお迎えして、謝花良次・七代会長就任奉告祭を執り行った。随行は、竹内義忠役員。

午前10時より、謝花会長の祭文奏上に続いて、大教会長が挨拶。「誰もが陽気ぐらしを味わえるような教会の雰囲気を、新しい会長を芯に、ここにいるみんなでつくっていただきたい」と話された。おつとめの後、挨拶に立った謝花会長は、「明るく賑やかな教会になるよう、沖縄に繋がるようぼくと一手一つに勤めさせていただく所存です」と決意を述べた。

その後、食堂に場所を移して祝宴。和やかなひとときを過ごした。参拝者は60名であった。

眞明組　おやさと伏せ込みひのきしん

5/25（日）
13:00 ～ 14:00
お墓地清掃
ひのきしん
豊田山墓地集合
※車は北寮前駐車場に停めてください
※雨天の場合、西礼拝場でおつとめ後、回廊拭きひのきしん

5/26（月）
本部祭典終了直後より30分
西境内地
ひのきしん

教会長子弟育成者研修会

3月24日、春季霊祭後、午後1時30分より、育成部（山田道弘部長）は、大教会陽気ホールで「教会長子弟育成者研修会」を開催。直属育成責任者、育成担当者合わせて42名が参加した。

はじめに、大教会長よりお話。「導く側が忘れてはならないのは、傍観者にならないこと。率先して動き、先導者、行動者として子に背中を見せることが重要」とし、また「親と子に限らず、教会長とようぼく子弟の関係は、教会長が直接一人ひとりに見合った声を掛け、心を掛けること、一歩一歩の積み重ねが大切である」と心構えを話された。

大教会長のお話

次に、奥田正儀部員による「教会長子弟育成プロジェクトのこれまでの取り組みの振り返り」。スクリーンに投影されたスライドを基に、教会長子弟育成プロジェクトを振り返り、教会子弟の現状や大教会として行ってきた育成の取り組みを説明した。

続いて、班に分かれてねりあい。大教会長のお話を聴いて感じたこと、教会での子弟育成の取り組みや今後の課題について、活発に意見交換を行った。

そして梶川和人部員から、教会家族名簿更新と活用について説明があり、最後に山田育成部長の閉講挨拶で閉会した。

教祖百三十年祭後より、「教会長子弟育成プロジェクト」の一環として、毎年実施してきたこの研修会も、教祖百四十年祭活動の三年目の今年をひと区切りとして、開催を終える。

春季霊祭執行

3月24日、大教会神殿、祖霊殿で春季霊祭が執行された。

午前10時より神殿の儀。大教会長の祭文奏上の後、十二下りのおつとめを勤めた。

続く祖霊殿の儀では、はじめに大教会長が祭文を奏上。

在籍者、教会長、各会の代表者、そしてこの日合祀された霊様の関係者が祖霊殿前に参進し、参拝した。

春季霊祭合祀

3月24日、春季霊祭において、大教会祖霊殿に新たに合祀されました。

奥田儀孝之霊
直轄信者

仁尾元明之霊
三好分教会五代会長

岩崎淑子之霊
宮江分教会七代会長

立教百八十八年　春季霊祭祭文

これの祖霊殿にお鎮まり下さいます、初代真柱中山眞之亮の霊様をはじめ、二代真柱中山正善の霊様、初代真柱夫人中山たまへの霊様、本席飯降伊蔵の霊様、並びに芦津大教会初代会長井筒梅治郎の霊様をはじめ、歴代会長の霊様、眞明芦津の上に尽くし伏せ込まれました役員、教会長、ようぼく、信者諸々の霊様、又この度新たに霊代に書き記し合わせて祀る直轄信者奥田儀孝の霊様、吉野川部属三好分教会五代会長仁尾元明の霊様、門司部属宮江分教会七代会長岩崎淑子の霊様、併せて一千五百二十三柱の霊様の前に、天理教芦津大教会長井筒梅夫、慎んで申し上げます。

御本部四柱の霊様には、道の親として神一条に苦心を重ねてご丹精下さり、温かき親心を以て道の子を導きお育て下さいました。お蔭を以て世界たすけの道が開けて、今日のたすけ一条の道がございます。又、初代梅治郎の霊様には奇しきお手引きによりこれの御教えにお引き寄せ頂かれ、爾来、御恩報じに真実を尽くし伏せ込まれ、その御高徳は眞明芦津の礎となり、道の次第は津々浦々に伸び栄え、今日の結構な姿をお見せ頂いております。又、夫々の霊様には親神様のお手引きのまに〳〵眞明芦津の道の草分けの頃から代々と、会長を芯にならん中をも一手一つに神一条に御丹精下され、或は国々処々に在っては、艱難苦労の道すがらも心倒さず真心を尽くして、たすけ一条にお勤め下さいました。眞明芦津の道が年限と共に有り難き理をお見せ頂き、今日も変わらず御教え通りたすけ一条に通らせて頂けますのも、親神様、教祖の厚き御守護と、深き親心の現われではございますが、又一つには霊様方が永の年限、代を重ねて伏せ込まれた真実の賜と、朝夕感謝の心を捧げて御礼を申し上げているところでございます。その中にも今日のこの日は、今年の春の霊祭を執り行う定めの日柄でございますので、御前に種々の心尽しの物を供え、在籍者をはじめ、参き集う人々と共に、ご遺徳を偲び、ご生前のご丹精を改めて厚くお礼申し上げます。

私共をはじめ、芦津に繋がる道の子一同は、教祖年祭の旬に相応しい成人を目標に、にをいがけ、おたすけに真心を尽くし、ひのきしんに励み、つくし運びに真実を傾けて、霊様方のたすけ一条のあとに誇りを持って続かせて頂きたいと存じます。

何卒、霊様方には一同の誠の心を御心安らかにお受け取り下さいまして、芦津の道の子が一手一つに心勇んで年祭活動を勤め切らせて頂けますようお導きの程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

青年会芦津分会総会
女子青年の集い

6/29

午前10時より
おつとめ、式典
アトラクション

少年会芦津団

デイキャンプ

信太山青少年野外活動センター

5月24日（土）

小学4年生～中学3年生
参加費 1,000円

あしつスプリングフェスタ開催

―次代を担う道の後継者を育てよう

３月27日から30日まで「春の若年層育成期間」として「あしつスプリングフェスタ」を開催。多くの若者がおぢばや大教会に寄り集い、教えを学び、仲間との友情を育む貴重な期間となった。

ＨＡＰＰＹ徒歩団参

スプリングフェスタは、今年も芦津学生会が企画する３月27日の「ＨＡＰＰＹ徒歩団参」でスタートした。今回で５回目となる徒歩団参は、中学１年生から25歳までの芦津に繋がる若者を対象としており、25名が参加した。

午前９時、大教会のお願いづとめに参拝し、ウォーミングアップの後、十三峠登り口までマイクロバスで移動。展望台までの上り坂を約45分かけて全員が上り切った。

その後、下り坂は和気あいあいと楽しく歩いた。平群スポーツセンターで昼食休憩をし、バスで天理市内まで移動。雨雲が近づいてきたため、予定のコースを短縮し、前栽駅付近から再度歩き始めた。神殿が近づくにつれ、足取りも軽快になり、午後２時30分に全員が無事におぢばに到着。神殿前で記念撮影をして解散した。

十三峠展望台に到着

前日まで天気予報では雨だったが、当日は風のない曇り空で、歩きやすい一日となった。参加者からは、「最初の上り坂はしんどかったけれど、たくさんの人と仲良くなれて、おしゃべりしながら楽しく歩けた」などの感想が聞かれた。

春の学生おぢばがえり

３月28日、「心をつなぎ輪になって、喜びあふれる春学」をテーマに「春の学生おぢばがえり」が開催され、芦津から47名の学生が参加した。

式典は雨天のため、急遽東礼拝場での開催となり、全国から集まった学生で殿内が埋め尽くされた。

式典では、真柱様からメッセージを頂戴し、学生２名が感話を行った。テーマソング「希望の花」斉唱では、殿内に学生の歌声が響き渡った。

式典終了後、詰所で直属アワーを開催。

はじめに大教会長が挨拶。おぢばは不思議めずらしいところであることを、具体的な話を挙げて伝え、「おぢばは皆さんのふるさとだから、おぢばのことを忘れることなく、何かあったときには御存命でお働きくださる教祖のところに足を運んでください。そしてこのお道は、おぢばに運ぶ信仰であることを心のどこかにおいて、勉学に励んでいただきたい」と望まれた。

記念撮影の後、河合太洋委員長が、参加者に対して感謝の思いを伝え、「みんなで一緒に楽しみましょう」と挨拶。

班ごとでオリジナルケーキを作成

昼食は食堂で、焼肉を楽しみ、その後、大広間で班別対抗ゲームやクイズで交流を深め、最後に班ごとでケーキ作りに取り組んだ。

参加者からは「式典の２人の感話が身近に感じた」「芦津の友達といろいろな話ができて、楽しかった」などの感想があった。

前日27日の夕づとめ後には、東西泉水プール前広場を会場に前夜祭「春Ｆｅｓ」が開催され、20店舗限定の模擬店やステージなどで盛り上がった。

直属アワー、大教会長を囲んで記念撮影

わかぎの集い

3月29日から30日朝にかけて、中学生を対象に「わかぎの集い」を大教会で開催し、12名が参加した。

午前10時より神殿で開講式が行われ、少年会・加世田洋団長の挨拶の後、おつとめ練習。少年会総会で勤める役割に分かれて練習し、参加者はそれぞれの担当の先生の話を真剣に聞き入り、熱心に取り組んだ。その後、神殿で全体練習を行った。

昼食後は、陽気ホールで学生会スタッフと共にウォーミングアップ、室内オリンピックを行い、参加者同士やスタッフとの距離が一気に縮まり、笑顔が溢れ、大いに盛り上がった。

次に、大教会館内を使った人気番組の企画「逃走中」を実施。参加者は出されるミッションをクリアしながら、ハンターに確保されないように協力しながら楽しんだ。

夕食は、オードブルを囲みながら、デザートをかけた班対抗イントロクイズに挑戦するなど、歓声が上がった。

おやすみ行事では、午後の行事の結果発表があり、優勝チームには豪華なお菓子の景品が贈られた。

翌朝、閉講式を行い、山田道弘育成部長が閉講挨拶。最後に記念写真を撮影した。

参加者からは「感謝の心でおつとめを勤める大切さを学べた」「短い時間の中で、同年代や学生会のスタッフと仲良くなれて楽しかった」との声が聞かれた。

少年会総会に向けおつとめ練習

少年会総会

3月30日、少年会芦津団（加世田洋団長）は、大教会で第53回総会を開催し、少年会員230名、育成会員329名、計559名が集まった。

午前10時、親神様、教祖、祖霊様礼拝後、祭主・石川三津元君、扈者・石川忠史君、河合善次君（いずれも直轄隊）が入場し、祭文を奏上。

この後、おつとめ。わかぎの集い参加者を中心に座りづとめを勤めた後、各隊が六下り目までを一下りずつ交替で勤め、親神様、教祖に練習の成果をご覧いただいた。

式典では、少年会長様の御告辞を加世田団長が代読。

その後、大教会長がお話。かしもの・かりものの理について分かりやすく話され、感謝の心をもって日々過ごすことと、「周囲で悩み苦しんでいる人がいたら、その人たちのたすかりを願っておつとめを勤めてください。おつとめでみんながたすけ合うのを教祖が一番喜ばれるので、これからも練習を重ねて、教会でおつとめが勤められるようになってください」と期待を述べられ、最後に「今年のこどもおぢばがえりにも、たくさんの友達を誘って参加しましょう」と呼びかけられた。

続いて、今春中学校を卒業する門出生30名を代表し、岩切大元君（四ツ山隊）と松本伊月さん（神滝本隊）が教祖の御前で「門出の言葉」を述べた。次に、お供え作品展入賞者を代表して、篠原銀成君（脇町隊）に大教会長から賞状と記念品が授与された。

その後、今川天馬君、今川旬亮君、今川かのんさん（東津隊）が演台前に進み、少年会員で「ちかい」を唱和した後、全員で「少年会の歌」を歌った。

この後、門出生は対面所で、「成人門出式」。大教会長からお話があり、お祝いの品が一人ひとりに手渡された。

午後からのお楽しみ行事では、からあげなどの模擬店、射的などのゲームコーナーや、シャボン玉などで楽しんだ。正面階段では10連けん玉選手権が開催され、玉の入った数を参加者で競い合った。

事情はこび

立教188年3月26日お許し
東津分教会　臨時祭典
創立百三十周年記念祭
10月19日

徳修分教会　任命
四代会長
井内豊明（いうち とよあき）　69歳

昭和51年おさづけの理拝戴、昭和54年姫路工業大学卒業、令和5年修養科第982期修了、6年教人登録、教会長資格検定合格。在職中、パソコンのシステム担当をしており、簡単なアプリの開発、メンテナンスができる。
就任奉告祭　5月4日

教務部報

教養掛（3月）
主任　中村　俊和

教人登録
中池　美和（順　世）
加藤　聡（丸　芳）
立教188年3月5日

おさづけの理拝戴《2月》
林　靖朗（有　家）

初席《2月》
〈1名〉直轄、大関門、大朝、天津
〈順序運びより　4名〉

■訃　報■

鎮惠分教会三代会長（和鎮部属）
今村壽雅子さん
令和7年3月12日出直された。享年85歳。

告別式は3月19日、梶川和人・和鎮分教会長斎主のもと、大阪府交野市の鎮惠分教会で執り行われた。
昭和14年兵庫県尼崎市で父・山本秀雄初代会長、母・三津子二代会長の長女として生まれ、32年相愛高等学校卒業、33年修養科第207期修了、おさづけの理拝戴、36年今村運開氏と結婚、53年修養科第441期修了後、詰所食堂勤務、59年教人登録、平成9年鎮惠分教会三代会長に就任。
常日頃から大らかで、感謝の心と笑顔を絶やさず、親一条に御用に励み、みちのだいとして、ようぼく、信者の丹精に真心を尽くされた。

鶴洋分教会三代会長（島原部属）
池田正司さん
令和7年3月26日出直された。享年95歳。

告別式は3月29日、岩切正教・島原分教会長斎主のもと、福岡県那珂川市の鶴洋分教会で執り行われた。
昭和6年福岡県直方生まれ。鶴洋分教会初代会長・尾畑惣三郎の導きにより、39年おさづけの理拝戴、49年修養科第394期修了、62年教人登録、二代会長・田中留の深い思いと、ようぼく、信者の厚い信頼から、平成4年鶴洋分教会三代会長を拝命、那珂川市道善の現在地に移転、神殿ふしんをして教会を復興した。
上級・島原分教会では役員として勤めた。穏やかな心の優しい人柄で、親一条につとめ、純粋な信仰を貫かれた。またつくし運びの上にも精いっぱいの真実を尽くされた。

月例統計（自令和7年1月1日～至令和7年2月28日）

項目 / 名称（）内教会数	初席	おさづけの理拝戴	修養科修了	教人
大教会（1）	9	5		
靱（13）				
東津（23）	1		1	
吉野川（29）			1	
島原（16）	1	4		
日方（15）	1			
稗島（7）				
本津（2）				
日高（2）				
姶良（5）				
津和（12）				
門司（6）		1		
當別（6）				
大島（26）	1			
沖縄（3）				
尼崎（2）				
四ツ山（5）				
大冠（2）				
島下（1）				
天保山（3）				
青木（1）				
芦浪（1）				
甲邊（1）				
芦華（1）				
天津（1）	1			
入江（1）				
豊野（1）				
紀周（3）	1			
勝明（1）				
神の島（1）				
兵庫眞洲（1）				
芦ノ郷（2）				
本明勇（2）				
明道（1）				
芦東（1）				
和鎮（3）				
神滝本（1）				
芦明徳（1）				
真明彰化（2）				
本氣（2）				
芦明照（1）				
真伯（1）				
合計（209）	15	10	2	0